

2. 令和元年度事業計画（当初計画）

平成 31 年 1 月 31 日

研究開発実施計画書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 東京都小金井市貫井北町 4-1-1
管理機関名 国立大学法人東京学芸大学
代表者名 出口 利 定 印

1 実施種別

- ☐ 幹事校
☒ 幹事校以外

2 研究開発名 「多文化共生社会の実現を支える組織力・対話力・実行力の育成」

3 研究開発の概要

「リスク」「葛藤と軋轢」「教育」を大テーマとした課題研究を通して、多文化共生社会の実現を牽引し、現代社会および未来につながる課題解決に主体的に取り組むために必要なコンピテンシー、特に「組織力」「対話力」「実行力」を養い、それを活かしたアクションを起こせる生徒を育成する。

＜仮説Ⅰ＞課題研究および各教科の授業、国際教養群の授業における探究的学習を通して、コンピテンシーの育成と伸長を促すための体系を整備し実践する。学習領域「国際教養」において、生徒の課題研究を現実的な課題に適う高次のレベルに引き上げるための構造的な改変を行う。

＜仮説Ⅱ＞課題研究の質の向上および課題研究と評価方法策定のための外部連携を強化し、生徒課題研究を中核としてネットワーク化する。

＜仮説Ⅲ＞生徒のコンピテンシーを評価するための指標・規準の確立を含む評価方法について、連携大学・企業・国際的組織と共同した研究・開発体制をとる。

4 事業の実施期間

契約日～平成 32（2020）年 3 月 31 日

5 平成 31 年度の研究開発実施計画

4 年次まで継続した取り組みは原則続ける。ここには最終年度として特徴的な点のみを記す。

＜仮説Ⅰ 関連事項＞

①後期課程の「国際教養」領域（総合的学習の時間を含む）について、2015 年度より開始し、改訂・修正を続けてきた体系を確立・実施する。また高度な課題研究の進行を支えるためのカリキュラムを充実させる。

・「課題研究」の基盤カリキュラムを設定し、個々の教員の指導力を向上させる手立てとする。

・海外研修実施時期を上記の一貫した「課題研究」の中で再設定し、研究に直接的に資する形での研修となるよう、実施内容・体制を改善する。国内研修も同様に多種の発表機会とは別に、課題研究の支援としての国内研修を行う。

・「グローバルカフェ」は「Specialist Lecture（仮）」「Student Work Shop（仮）」に分類し、目的をより明確化して開催する。あわせて生徒が主体的に開催する際のガイドラインを設定する。

②SGHAct の単位認定制度実施のための審議と新学習指導要領に基づいた教育課程編成上の開設検討を行う。

③仮説Ⅱとも関連させ、外部連携を活用したポスト・アクティブラーニングの実践的形態について具体的に構想し、授業内での試行を行う。

＜仮説Ⅱ 関連事項＞

④外部連携のネットワークを構築し連携事業を継続して実施する。
 ⑤課題研究の発展をねらいとした高大連携を深めるため、課題研究の指導について大学教員との連携を緊密化する。

＜仮説Ⅲ関連事項＞

⑥仮説Ⅲの実施の第3段階として、育成すべき資質・能力についての評価方法や評価材料の見直しを外部と連携して行う。そのために、事業初年次から4年次までの変化・変容を分析・確認する会議を設ける。

【内部評価】

- ・課題研究を評価するルーブリック（評価規準）を見直し、より適切なものに改訂する。
- ・課題研究・国内外研修・発表活動に取り組んだ生徒（卒業生）の追跡調査を行い、育成すべき資質・能力の評価方法・評価規準の策定と試行を行う。

【外部評価】

- ・4年次までに外部コンテストや研究発表会等、外部から評価を受けた結果を分析し、校内規準による評価との比較・分析を行う。
- ・外部連携組織によるルーブリックを用いた評価と検証を行う。
- ・課題研究を評価する「外部評価会（平成27年度より開始）」のフィードバックがどのように生かされたかの分析を行う。

＜アジア高校生架け橋プロジェクト＞

- ・受入可能人数：1名～2名（長期滞在の場合）※短期（1日等）の滞在は30名程度の受け入れ可。2018年度はフィリピンからの生徒であったため、海外研修の事前講師として講義を依頼し、SGH 高校生フォーラムのディスカッション参加者としても本校生徒とともに参加した。次年度以降は課題研究にも参加し、本校生徒と協働して研究ができるようにしていく。

＜事業評価＞

- ・4年間の事業において交流・連携のあった国内外の学校・教育機関・外部組織に生徒の課題研究や学校の取り組みについての評価とフィードバックを依頼する。
- ・本校のSGH事業支援者であるSGH事業開始前の卒業生およびSGH事業開始後の卒業生に卒業生として本校のSGH事業への取り組みについてのフィードバックを依頼する。

＜成果の発信・普及＞

- ・SGH最終成果報告会開催（2019年11月または2020年2月を予定）

＜添付資料＞

- ・平成31年度教育課程表

6 事業実施体制

課題項目	実施場所	事業担当責任者
課題研究 カリキュラム策定	指定校および外部連携機関	杉本紀子（SGH委員会主任） 小林廉（国際教養委員会主任）
ISSチャレンジ実施 合同成果発表会実施	指定校 管理機関	水本 肇（SGH委員会） 管理機関（SGH推進委員会）
海外派遣事業	イギリス	水本 肇（SGH委員会）
	東アジア（香港）・東南アジア（フィリピン）	小林万純（SGH委員会）
国内研修・交流事業	国内（東京・長野・福島・名古屋・神戸・岡山）	長谷川智大（SGH委員会）
国際A/B「ファシリテーション実践」「国際協力と社会貢献」	指定校	藤木正史（SGHグループ） 小林 廉（国際教養委員会主任）
課題研究支援セミナー実施	指定校および外部連携機関	小林万純（SGH委員会主任） 長谷川智大（SGH委員会）
グローバルカフェ実施	指定校および外部連携機関	影山 諒（SGH委員会）

外部連携ネットワーク構築	管理機関・指定校および外部 連携機関	管理機関（SGH 推進委員会） 影山 諒（SGH 委員会） 徳初美（交流委员会主任）
外部連携評価事業 （事業評価） （課題研究・資質能力評価）	管理機関・指定校および外部 連携機関	管理機関（SGH 推進委員会） 荻野勉（校長） 後藤貴裕（副校長） 杉本紀子（SGH 委员会主任） 小林廉（国際教養委员会主任）
SGHAct 単位認定制度検討	指定校	河野真也（進路指導主事） 長谷川智大（SGH 委員会）
評価方法・規準の策定	管理機関・指定校および外部 連携機関	長谷川智大（SGH 委員会） 小林廉（国際教養委员会主任）
運営委員会実施	管理機関・指定校	管理機関 東京学芸大学

7 課題項目別実施期間

業務項目	実施期間（ 2019 年 4 月 1 日 ～ 2020 年 3 月 31 日）											
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
課題研究												
課題研究支援セミナー												
グローバルカフェ												
ISS チャレンジ												
課題研究外部評価会												
国際 A/B 開講												
教科連携カリキュラム開発												
SGHAct 制度開発												
海外研修・海外交流												
アジア高校生架け橋プロジェクト												
国内研修・国内交流												
外部連携ネットワーク構築 ・データベース作成												
評価方法の開発・策定												
運営指導委員会												
最終成果報告会												
SGH 推進委員会												

8 所要経費

別添のとおり

【担当者】

担当課	総務部附属学校課	TEL	
氏 名		FAX	
職 名	附属学校第二係	e-mail	fgakkou@u-gakugei.ac.jp